

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Concluding remarks

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2006-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福嶋, 教隆, Fukushima, Noritaka メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1180

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



結 び

Concluding remarks

福 畠 教 隆

Noritaka Fukushima

『外国学研究』本号は、2004～2005年度「より良いスペイン語教育をめざして」研究班の2年にわたる研究の報告書である。同研究班は、本学教授である西川喬，宮本正美，福畠教隆（代表者），本学助教授モンセラット・サンス（Montserrat Sanz），本学大学院生（修士課程，日本アジア言語文化専攻）のロジェール・シビット（Roger Civit），研究留学生（国費外国人留学生）のサンティアゴ・ロドリゲス（Santiago Rodríguez）の6名で構成されている。

本学イスパニア学科では、近年、効果的な教育法の開発をめざして体系だった研究を開始した。まず2002～2003年度に、サンス（代表者）と福畠の2名から成る「日本語話者のスペイン語習得に関する研究」班を作り、基礎研究を行い、その成果を『外国学研究』第57号として発表した。これは小回りのきく少人数のサブチームの活動であった。

2004～2005年度にはこれを発展させて、日本人3名，スペイン人3名から成るチームを作り、応用研究を行い、このたびの成果発表となった。折りよくこの時期に、本テーマに合致した研究目的を持つスペイン人留学生が2名も在学したため、本チームに参加してもらえたのは、実にありがたかった。日本語話者とスペイン語話者の双方からの視点がバランスよく採り入れられ、独自性に富む報告書となったのではないかと自負している。

6名の構成員が1章ずつの執筆を担当し、6章から成る本報告書が生まれた。

第1章は英語で、第2～4章はスペイン語で、第5～6章は日本語で書かれている。

第1章では、日本語話者がスペイン語の名詞節と関係節を習得する場合の問題点を明らかにし、教科書編集や授業における留意点を指摘した。

第2章では、日本の大学で使用されているスペイン語教科書を批判的に分析し、より良い教育の可能性を探った。

第3章では、日本語話者がスペイン語で話す際にみられる傾向について述べた。動詞の活用を *hablo, hablas, ...* と順に唱えて正しい形に至る事例が多いなどの、興味深い指摘を行った。

以上の前半の3つの章の執筆者は、特に活発な共同研究を行い、2005年3月には、バルセロナで開かれた二言語使用国際シンポジウムでその成果の一端を発表している。

第4章では、一般に習得が困難とされる動詞の接続法の諸用法は、どうすれば効率的に教授できるかを考察した。

第5章は、主に作文の授業で生じる具体的な問題を扱った。英語の *be* に相当する動詞 *ser* を過去の文脈で用いる際、点過去・線過去、どちらの過去形を選べばいいのか、学生たちはしばしば迷い、まちがえる。本章では、その実態に関する調査に基づき、教授法に関する提言が行われた。

第6章は、基本語の含まれた例文を、教科書からいかに抽出して教育研究に生かすかという問題を扱った。

以上の後半の3つの章の執筆者は、叙法、時制、コンピュータ言語学という各々の専門分野をスペイン語教育と関連づけて論じている。

なお、巻末に付録として本書の主題に関連する文献の一覧を掲げた。これは先の報告書（『外国学研究』第57号）に記した一覧を補うものである。

近年、わが国におけるスペイン語教育は発展傾向にある。2005年度より姫路獨協大学にスペイン語学科が新設された。また2006年度より摂南大学にスペイン語コースが増設されることになった。高校においても、2005年5月1日現在、

スペイン語を教える学校が101校、履修者が2,784名で、前年度に比べ17校の増加だという。(文部科学省調べ、朝日新聞2005年9月19日)このような状況で、本報告書が本学の教育のみならず、一般のスペイン語教育の改良にいささかなりとも寄与するところがあればと願っている。

最後に、本研究班に対してこのような研究の機会を与えて下さった神戸市外国語大学ならびに外国学研究所、また研究にご協力いただいた諸研究者、学生の皆さんに心からのお礼を申し上げます。